

四〇〇〇タークの 田園を潤す

■玉名平野の 土地改良

土地の基盤整備は、農業近代化のため
の大きな基礎条件だが、現在、城
北の穀倉地帯、玉名平野では、県下
最大の規模で整備事業が進められて
いる。



玉名平野は、菊池川の河口に広がる約
四、〇〇〇畝の平野で、八代平野、熊本
平野に次ぐ豊かな穀倉地帯である。また
この地域は、近年城北の工業地帯として
新産業都市の一拠点として脚光を浴びつ
つある。

一口に言って、玉名平野の土地改良事
業は農業を近代化し、生産性を向上させ
る基礎条件として、県が積極的な姿勢で
取り組んでいる農業基盤整備事業の中の
大事業である。玉名平野の土地改良につ
いては、古くからいろいろな形が加えら
れてきたが特に戦後も部分的には、排水
改良事業、用水改良事業（特に揚水機に
よるもの）、防災事業等が行なわれてき
た。土地改良事業は、第一次から第二

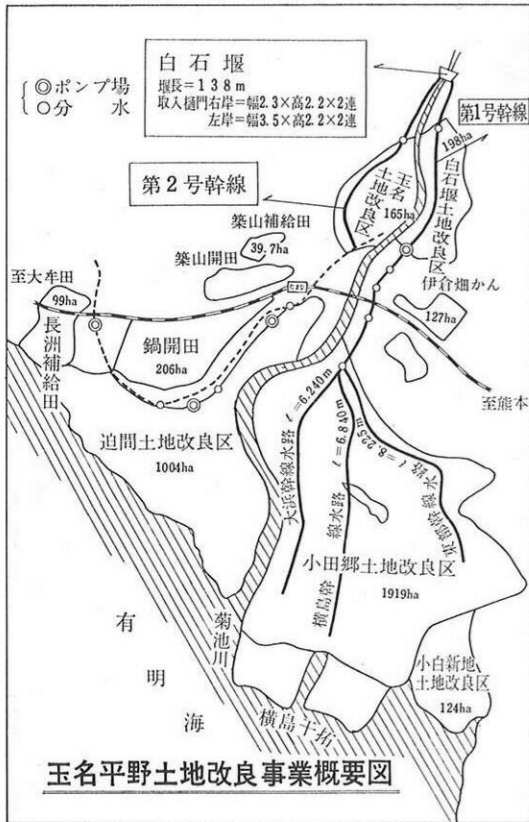
次、第三次とその時代の社会的条件とか
自然的条件等の要求によって土地改良の
形は移り変わってきている。現在に至って
は、農業の労力および生産経費の節減を
はかることはもとより、機械化、栽培技
術の進歩にももたせて、より高度な土地
改良を要する時代となった。このような
時代の要求するところによって、現在施
工されている県営玉名平野土地改良事業
と計画中の玉名平野は場整備事業の概要
について、ここではふれてみることにし
よう。

県下最大の 土地改良事業

菊池川を水源とする玉名平野の水田
は、次頁の表のような現況である。
表のように、約三、〇〇〇畝は、ポン
プ揚水によって用水を確保しているが、

菊池川は河川改修工事などによって、流
心、河床の変化が大きく、又流砂の流入
が激しいため、揚水困難な状態に至るこ
とが多く、その維持管理費は年々増大の
傾向にあった。しかも昭和四十三年度完

了予定の国営横島千拓四八〇畝の用水確
保という問題もあった。一方自然取水し
ている白石堰掛りも、築造以来約一五〇
年を経過した古い取水堰であったため、
年々災害に見舞われその復旧工事等維持



玉名平野土地改良事業概要図